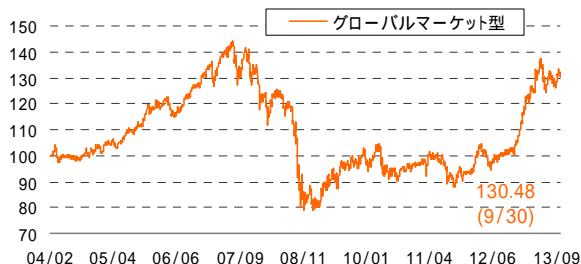


特別勘定クォーターレポート

スイス年金

新変額個人年金保険(無配当)

ユニット・プライスの推移



ユニット・プライスとは、特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の参考値で各特別勘定の運用開始時の値を「100」として指数化したものです。

参考 主な投資対象の投資信託の運用状況(出所:アバディーン投信投資顧問株式会社)

世界バランス・ファンド(適格機関投資家専用)

基準価額の騰落率

	1か月	3か月	6か月	1年	3年
世界バランス・ファンド	2.93%	2.85%	4.90%	31.47%	42.66%

資産別構成比

	ファンド	複合指数 (参考データ)	ベット
株 式	50.57%	50.00%	0.57%
北米地域	28.06%	28.84%	-0.78%
欧州(除く英国)	10.37%	9.32%	1.05%
英国	4.71%	4.60%	0.11%
日本	3.54%	4.57%	-1.04%
香港・シンガポール	2.00%	0.95%	1.05%
豪州・ニュージーランド	1.89%	1.71%	0.18%
債 券	48.93%	50.00%	-1.07%
米ドル圏	16.34%	16.86%	-0.52%
欧州(除く英国)	16.29%	16.77%	-0.48%
英国	2.85%	2.81%	0.04%
日本	13.46%	13.57%	-0.11%
現 預 金	0.50%	0.00%	0.50%
合 計	100.00%	100.00%	0.00%

通貨別構成比

	ファンド	複合指数 (参考データ)
米ドル圏	46.84%	46.09%
ユーロ圏	23.89%	24.03%
イギリスポンド	7.00%	7.41%
豪ドル(含NZD)	2.31%	2.28%
スイス・フラン	1.37%	2.06%
日本円	18.59%	18.14%
合計	100.0%	100.0%

* 複合指数はMSCI Worldインデックスの50%、シティグループ世界国債インデックスの50%を加重平均した指数

特別勘定の名称

グローバルマーケット型

主な運用対象の投資信託

世界バランス・ファンド
(適格機関投資家専用)

投資信託の運用会社

アバディーン投信投資顧問株式会社

ユニット・プライスの騰落率

1か月	3か月	6か月	1年	3年	設定来
2.70%	2.42%	4.08%	29.26%	36.93%	30.48%

特別勘定資産内訳

					構成比(%)
現 預 金	・	そ の 他	・	他 託	4.0%
投 資		信 託		計	96.0%
合 計					100.0%

上位10銘柄

(総組入れ銘柄数 173)

株式	国名	業種	投資比率
ROCHE HOLDING AG-GENUSS	スイス	ヘルスカ	2.55%
VODAFONE GROUP PLC	イギリス	電気通信サービス	2.34%
NOVARTIS AG-REG SHS	スイス	ヘルスカ	2.29%
ROYAL DUTCH SHELL PLC-B SHS	イギリス	エネルギー	2.19%
BRITISH AMERICAN TOBACCO PLC	イギリス	生活必需品	2.15%
CVS CAREMARK CORP	アメリカ	生活必需品	2.12%
PHILIP MORRIS INTERNATIONAL	アメリカ	生活必需品	2.11%
ZURICH INSURANCE GROUP AG	スイス	金融	2.09%
STANDARD CHARTERED PLC	イギリス	金融	1.98%
TENARIS SA-ADR	イタリア	エネルギー	1.94%
合計			21.75%

債券	クーポン	償還日	投資比率
アメリカ国債	2.250	2017/11/30	1.14%
イタリア国債	3.500	2018/06/01	0.77%
アメリカ国債	4.500	2015/11/15	0.69%
第260回利付国債(10年)	1.600	2014/06/20	0.68%
ドイツ国債	4.000	2018/01/04	0.65%
アメリカ国債	2.500	2023/08/15	0.62%
フランス国債	3.500	2015/04/25	0.55%
アメリカ国債	3.125	2043/02/15	0.54%
イタリア国債	5.500	2022/09/01	0.51%
第40回利付国債(20年)	2.300	2018/09/20	0.50%
合計			6.66%

当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。その他、3/3ページの「ご注意いただきたい事項」等を必ずご参照ください。

運用コメント

市場概況

・日本株式

(7月)参議院選挙が終わり、衆参ねじれ解消と政権安定が決まりましたが、株式市場は低調でした。
(8月)日本の4-6月国内総生産(GDP)が前期比年率+2.6%と予想を下回ったことや、円高傾向などから下落しました。
(9月)日本が2020年夏季五輪開催地に選出されたことなどを背景に大きく上昇しました。

・日本債券

(7月)欧米の低金利政策の長期化観測や日銀による長期国債買い入れオペなどを背景に、長期金利は低下しました。
(8月)日本経済の先行き不透明感や投資家のリスク回避の動きから、金利は低下傾向となりました。
(9月)良好な国債需給環境のもと、海外市況の影響を受けつつもボックス圏での推移となりました。

・外国株式

(7月)ドラギECB総裁が長期にわたる低金利を示唆したことで、欧州や英国を中心として米国でも上昇しました。
(8月)ユーロ圏の4-6月期GDP速報値がプラスに転じるなど改善のみえる経済状況にもかかわらず、世界的な金利水準の上昇やシリア情勢の緊迫化を受けて世界的に下落しました。
(9月)シリアへの軍事介入懸念が払拭され、経済規模の大きい日本が2020年夏季五輪開催地に選出されたことなどを背景として世界的に上昇しました。

・外国債券

(7月)バーナンキFRB議長が量的緩和継続を支持したことで投資家心理が改善し、主要国の10年国債利回りはやや低下傾向に転じましたが、米国は若干上昇して2.5%に達しました。
(8月)米国の量的緩和の縮小時期や規模を巡る観測に揺れ、米国および英国の10年国債利回りが2.7%台、ドイツが1.8%台に達しました。
(9月)上旬に米国および英国で3%、ドイツで2%台に達した各主要国10年債利回りが、米国の量的緩和が現状維持された影響で下旬には大きく低下しました。

・為替

(7月)米ドルや新興国通貨等が下落し、ユーロや欧州非ユーロ国通貨が反発しました。
(8月)新興国通貨の下落が続き、米ドル、ユーロおよび円の主要通貨は乏しい動きとなりました。
(9月)米国の2014年度予算審議の膠着への不安から米ドルが下落し、ユーロおよび他通貨は対円で上昇しました。

運用概況

・今四半期(2013年7月~9月)のファンドのパフォーマンスは基準価額ベースで+2.85%となりました。月別に見ると7月が+1.46%、8月が-1.52%、9月が+2.93%となります。株式および債券は上昇、通貨もやや円安の影響を受けてプラスとなったことで、基準価額は上昇しました。
・今四半期のパフォーマンスは、ベンチマークを下回りました。その主なマイナス要因となった株式部門では、銘柄選択効果において、ベンチマーク対象地域外であるエマージング市場を除くと、日本を除く全地域でマイナスとなりました。資産および地域配分効果において、株式では当ファンドの運用が好調となった新興国市場への投資がプラスでした。債券および為替部門は、株式に比べて上昇率の低かった債券へのオーバーウェイトがマイナスとなりました。為替は、期中に豪ドルのウェイトを中立に戻しましたが、ベンチマークを意識した運用を行い寄与は限定的でした。
・今四半期の資産配分については、株式のアンダーウェイト、債券のオーバーウェイトを目標としてきましたが、好調な株式市場により中立的な配分へと変化していきました。株式については、期初において英国のアンダーウェイトを継続しつつ、中立としてきた北米地域や日本をアンダーウェイトへ、オーバーウェイトしてきた香港・シンガポールなどアジア株式を中立に各々変更しましたが、期末にかけて英国は株式市場や英国ボンドの上昇により中立に近づきました。債券については英国をオーバーウェイトし、日本は引き続き現預金相当分をアンダーウェイトしました。為替に関しては、豪ドルの対米ドルでの割高感は解消されたとして、米ドル、豪ドルともに中立に変更しました。

運用方針

・一部の株式市場で調整が進んだことや世界的に景気見通しがやや改善傾向となり、超金融緩和の解除への思惑が台頭していることなどから、わずかに株式をオーバーウェイト、債券をアンダーウェイトとする予定です。
・株式については、北米地域や日本のアンダーウェイトを継続する一方、これまで中立としてきた欧州および香港・シンガポールをオーバーウェイトに変更する方針です。
・債券については全般に中立とする中、日本は引き続き現預金相当分をアンダーウェイトする方針です。為替に関しては、全体的にウェイト付けは行わない予定です。

当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。その他、3/3ページの「ご注意いただきたい事項」等を必ずご参照ください。

当資料はアクサ生命が新変額個人年金保険「スイス年金」の特別勘定について運用状況などを報告する資料です

ご注意いただきたい事項

▲ 投資リスクについて

この保険の据置(運用)期間中の運用は特別勘定で行なわれます。特別勘定資産の運用実績に基づいて年金額、死亡給付金額および解約払戻金額等が変動(増減)します。特別勘定資産の運用は、株式および公社債等の価格変動と為替変動等に伴う投資リスクがあり、運用実績によってはお受け取りになる年金額や解約払戻金額の合計額が一時払保険料を下回ることがあります。これらのリスクはすべてご契約者に帰属します。

▲ 元本欠損が生じる場合があります

解約の時期、被保険者の契約年齢等の諸条件により、ご契約者等が受け取る金額の合計額が、お払込保険料の合計額を下回る場合もあります。保険会社の業務または財産の状況の変化により、年金額、死亡給付金額、解約払戻金額等が削減されることがあります。

▲ 諸費用について

契約初期費	一時払保険料に対して 5.0% を特別勘定繰入前に控除します。
保険関係費	特別勘定の資産総額に対して (年率0.75% + 運用実績に応じた費用()) /365日を毎日控除します。 運用実績に応じた費用:運用実績を毎日判定し、実績が 年率1.5%を超過 した場合のみ、 超過分1%あたり0.1%(上限1.25%) を控除します。
年金管理費	年金支払開始日以後、支払年金額の 1% を年金支払日に控除します。
資産運用関係費	グローバルマーケット型 年率0.714%程度

資産運用関係費は将来変更されることがあります。

その他お客さまにご負担いただく手数料には、信託事務の諸費用等、有価証券の売買委託手数料および消費税等の税金がかかりますが、費用の発生前に金額や割合を確定することが困難なため表示することができません。また、これらの費用は各特別勘定がその保有資産から負担するため、基準価額に反映することとなります。したがって、お客さまはこれらの費用を間接的に負担することとなります。

その他ご注意いただきたい事項

当資料は、特別勘定の主な投資対象である投資信託の勧誘を目的としたものではありません。

新変額個人年金保険「スイス年金」は、生命保険商品であり投資信託ではありません。また、ご契約者様が直接投資信託を保有されている訳ではありません。

新変額個人年金には複数の特別勘定グループが設定されており、「スイス年金」には「特別勘定グループ(TS型)」が設定されています。保険料繰り入れおよび積立金の移転は「特別勘定グループ(TS型)」に属する特別勘定に限定されます。「特別勘定グループ(TS型)」以外の特別勘定グループに属する特別勘定への保険料の繰り入れおよび積立金の移転はできません。

特別勘定および特別勘定の主な運用対象となる投資信託の内容が変更されることがあります。

特別勘定資産の運用実績は、特別勘定が主な投資対象とする投資信託の運用実績とは異なり、一致するものではありません。これは、特別勘定は投資信託のほかに、保険契約の異動等に備えて一定の現預金等を保有していることや、積立金の計算にあたり投資信託の値動きには反映されていない保険にかかる費用等を特別勘定資産から控除していることなどによるものです。

ユニット・プライスとは、特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の参考値で、各特別勘定の運用開始時の値を「100」として指数化したものです。

新変額個人年金保険(無配当)「スイス年金」は現在販売しておりません。

【募集代理店】

株式会社東京スター銀行



東京スター銀行

0120-330-655

(平日 9:00~21:00 土日祝 9:00~17:00 年末・年始を除く)

ホームページ/<http://www.tokyostarbank.co.jp>

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3

TEL 0120-933-399

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>